

日蓮大聖人御書全集

くろうたろうどのごへんじ

九郎太郎殿御返事

いえ いもくよう こと

（家の芋供養の事）

新版
1861
〜
1862

くろろうたろうどのごへんじ いえ いもくよう こと
九郎太郎殿御返事（家の芋供養の事）

けんじ ねん がつ にち さい
建治2年（76） 9月15日 55歳

くろろうたろう なんじようどの えんじや
九郎太郎（南条殿の縁者）

家 いもいちだ おく た そうろう
いえの芋一駄、送り給ひ候。

崑 崙 ざん もう やま たま あ いし 乏
こんろん山と申す山には玉のみ有つて石なし。石ともし

たま いし 替 彭 蠡 浜 もう うら き
ければ、玉をもつて石をかう。ほうれいひんと申す浦には木

くさ 魚 たきぎ 替 はな やまい もの 梅 檀
草なし。いおもつて薪をかう。鼻に病ある者は、せんだん

こう ゆう まなこ もの あき かがみ
香、用にあらず。眼なき者は、明らかなる鏡なにかせん。

みのぶ さわ もう ところ かいのくにはきいのごう うち しんざん
この身延の沢と申す処は、甲斐国波木井郷の内の深山な

にし はないた

もう 岳

ひがし てんし 岳

り。西には七面のがれと申すたけあり。東は天子のたけ、

みなみ たかとり きた みのお しざん なか ふか たに

南は鷹取のたけ、北は身延のたけ、四山の中に深き谷あり。

箱 底 みね 巴 峡 さる こえ 喧

はこのそこのごとし。峰にははこの猿の音かまびすし。谷

大 塊 いしおお 駿 河 芋

にはたいかいの石多し。しかれども、するがのいものよう

そうろういし ひと そうら 芋 珍 暗

に候石は一つも候わず。いものめずらしきこと、くらき

よ 灯 過 渴 とき みず 過 そうら

夜のもしびにもすぎ、かわける時の水にもすぎて候いき。

珍 遊 そうら

いかにめずらしからずとはあそばされて候ぞ。されば、

おお そうら 恋 ほけきよう

それには多く候か。あらこいし、あらこいし。法華経・

しゃかぶつ 譲 そうら さだ ほとけ おんこころざし

釈迦仏にゆずりまいらせ候いぬ。定めて、仏は御志を

納 たも おんよろこ そうら りようぜんじようど 詣

おさめ給うなれば、御悦び候らん。靈山浄土へまいらせ

たま とき おんたず きようきようきんげん

給いたらん時、御尋ねあるべし。恐々謹言。

けんじにねんひのえねくがつじゅうごにち にちれん かおう

建治二年丙子九月十五日

日蓮 花押

くろうたろうどのごへんじ

九郎太郎殿御返事